

令和3年 病害虫防除指導情報 第7号

作物名：ねぎ
病害虫名：べと病、さび病

べと病、さび病の甚・多発生ほ場が一部で確認されています。
ほ場をよく観察し、薬剤防除を徹底してまん延を防止しましょう。

1 ベと病の発生状況

- (1) 7月中旬の巡回調査において、県南地域の広い範囲で発生が認められ、一部で甚・多発生ほ場が確認された(表1)。
(2) ベと病斑が多い場合は、その後に斑点性病害の発生が多くなる傾向があるため、注意が必要である。

表1 7月中旬巡回調査におけるべと病の発生状況

調査時期	地域	年次	調査地点数	発生程度別地点率(%)				発生地点率(%)	平均発病株率(%)
				甚	多	中	少		
7月中旬	津軽	本年	24	0	0	0	0	0	0
		平年	11	0	0	0.9	8.2	9.1	0.6
	県南	本年	36	8.3	2.8	0	41.7	52.8	8.7
		平年	22	5.0	5.3	8.3	34.5	53.2	9.8
	県計	本年	60	5.0	1.7	0	25.0	31.7	5.2
		平年	33	3.3	3.5	5.4	25.4	37.6	6.6

注) 発生程度：発病株率 甚 51%以上、多 31~50%、中 11~30%、少 1~10%



【べと病の多発生ほ場】

【べと病の発病株】

【べと病斑】

2 さび病の発生状況

- (1) 7月中旬の巡回調査において、津軽地域、県南地域ともに広い範囲で発生が認められ、発病株率、発病度が平年より高く、一部で甚・多発生ほ場が確認された(表2)。
(2) さび病は肥料切れして草勢が衰えると発病しやすくなる。また、低温多湿が続くと多発する傾向があり、今後の気象によっては発生が拡大するおそれがある。

表2 7月中旬巡回調査におけるさび病の発生状況

調査時期	地域	年次	調査地点数	発生程度別地点率(%)				発生地点率(%)	平均	
				甚	多	中	少		発病株率(%)	発病度
7月中旬	津軽	本年	24	0	0	25.0	62.5	87.5	16.8	3.5
		平年	11	0	2.8	8.1	38.1	49.0	7.5	2.1
	県南	本年	36	5.6	16.7	2.8	41.7	66.7	20.6	8.1
		平年	22	0	3.2	15.3	47.4	66.0	11.9	3.3
	県計	本年	60	3.3	10.0	11.7	50.0	75.0	19.1	6.3
		平年	33	0	3.0	13.0	44.1	60.1	10.4	2.9

注) 発生程度：発病度 甚 41以上、多 21~40、中 6~20、少 1~5



【さび病の多発ほ場】

【さび病の発病株】

【さび病斑】

3 防除対策

- (1) べと病及びさび病は、発生が多くなってからの薬剤防除では効果が劣るため、ほ場をよく見回り、発生初期の防除を徹底する(表3)。発生が認められていないほ場でも予防散布を行う。また、被害茎葉は伝染源となるので処分する。
- (2) べと病が発生しているほ場では、治癒効果の高い剤(ジメトモルフ剤(40)、シモキサニル剤(27)、メタラキシル剤(4)、ベンチアバリカルブイソプロピル剤(40)等)を十分量散布する。
- (3) 同一系統の薬剤は連用を避け、作用機構の異なる薬剤をローテーションして散布する。

表3 ねぎのべと病及びさび病防除薬剤一覧

農薬名	F R A C コード	有効成分	使用方法				適用病害名	
			希釈倍数・使用量	使用時期	使用回数	成分総使用回数	べと病	さび病
普 リドミルゴールドMZ	4	メタラキシルM	1000	収穫14日前	3回	メタラキシル及びメタラキシルMを含む剤5回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	○	
	M03	マンゼブ				3回以内		
普 フォリオゴールド	4	メタラキシルM	800~1000	収穫14日前	3回	メタラキシル及びメタラキシルMを含む剤5回以内(種子への処理は1回以内、土壌混和は1回以内、散布は3回以内)	○	
	M05	T P N				4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)		
普 レーバフロアブル	40	マンジプロバミド	2000	収穫7日前	2回	2回以内	○	
普 フェスティバル水和剤	40	ジメトモルフ	2000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
普 フェスティバルC水和剤	40	ジメトモルフ	1000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	M01	塩基性塩化銅				—		
普 フェスティバルM水和剤	40	ジメトモルフ	1000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	M03	マンゼブ				3回以内		
普 ザンプロDMフロアブル	40	ジメトモルフ	1500~2000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	45	アメクトラジン				3回以内		
普 プロポーズ顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブイソプロピル	1000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	M05	T P N				4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)		
普 ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤*	40	プロピル	750~1000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	M03	マンゼブ				3回以内		
普 ベトファイター顆粒水和剤	40	ベンチアバリカルブイソプロピル	2000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
	27	シモキサニル				4回以内		
普 ダイナモ顆粒水和剤	21	アミスプロム	2000	収穫3日前	4回	4回以内	○	
	27	シモキサニル				4回以内		
普 ランマンフロアブル	21	シアソファミド	2000	収穫3日前	4回	4回以内	○	
普 メジャーフロアブル	11	ピコキシストロピン	2000	収穫前日	3回	3回以内	○	○
普 アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロピン	2000	収穫3日前	4回	5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内)	○	○
普 アミスターオブティフロアブル	11	アゾキシストロピン	1000	収穫14日前	3回	5回以内(粒剤は1回以内、水和剤は4回以内)	○	○
	M05	T P N				4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)		
普 ダコニール1000	M05	T P N	1000	収穫14日前	3回	4回以内(土壌灌注は1回以内、散布は3回以内)	○	
普 オキシラン水和剤	M04	キャプタン	600	収穫14日前	5回	6回以内(種子紛衣は1回以内、は種後は5回以内)	○	
	M01	有機銅				5回以内		
普 ヨネボン水和剤	M01	ノニルフェノールスルホン酸銅	500	収穫7日前	4回	4回以内	○	
普 マンゼブ水和剤*	M03	マンゼブ	600	収穫14日前	3回	3回以内	○	○
普 テーク水和剤	3	シメコナゾール	600	収穫14日前	3回	3回以内(は種時は1回以内)	○	○
	M03	マンゼブ				3回以内		
普 ビシロックフロアブル	U17	ピカルブトラゾクス	1000	収穫前日	3回	3回以内	○	
普 オンリーワンフロアブル	3	テブコナゾール	1000	収穫14日前	3回	3回以内	○	
普 ファンタジスタ顆粒水和剤	11	ビリベンカルブ	3000	収穫7日前	3回	3回以内	○	○
普 アフェットフロアブル	7	ベンチオピラド	2000	収穫前日	2回	4回以内(株元灌注は2回以内、散布は2回以内)	○	
普 サブロール乳剤	3	トリホリン	800~1000	収穫前日	5回	5回以内	○	
普 ラリー水和剤	3	ミクロブタニル	2000	収穫7日前	3回	3回以内	○	
普 ストロビーフロアブル	11	クレソキシムメチル	2000	収穫7日前	3回	3回以内	○	
普 シグナムWDG	11	ピラクロストロピン	1500	収穫7日前	3回	3回以内	○	○
	7	ボスカリド				3回以内		
劇 ハチハチ乳剤	39	トルフェンピラド	1000	収穫7日前	2回	2回以内	○	○

* ベンチアバリカルブイソプロピル・マンゼブ水和剤：ベネセット水和剤、カンパネラ水和剤
マンゼブ水和剤：ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤

————— 農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください —————

短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用してください。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 <https://pesticide.maff.go.jp/>
(独) 農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

～青森県農薬危害防止運動展開中！（5月1日～8月31日）～

- 農作物や使用者の安全のため、農薬は使用基準を守って使用しよう！
- 農薬散布の際は、周辺に農薬を飛散させないようにしよう！

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>

【この情報に関する問合せ先】

青森県病虫害防除所 担当：主幹 品川 聖也
〒030-0113 青森市第二問屋町 4-11-6
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900